

令和8年度春季入学春季募集 熊本県立大学大学院 環境共生学研究科
博士前期課程 社会人特別選抜試験問題 専門科目 解答例

【専門科目番号：24 専門科目名：栄養教育学】

- 問1 (1) システム1は、直感的で自動的に働く思考であり、意識的な努力をほとんど必要とせず、素早く判断や意思決定を行うことが特徴である。日常生活の中で無意識のうちに行われる判断や習慣的な行動は、主にシステム1によって処理されている。システム2は、意識的で熟慮的な思考であり、時間や認知的努力を要する。情報を比較したり、理由を考えたりしながら判断する場合には、システム2が機能している。
- (2) システム1に働きかける取り組みとしては、児童が「おいしそう」「食べたい」と直感的に感じられるような手立てが有効である。例えば、給食のネーミングを工夫したり、見た目から食欲を喚起したりすることが考えられる。また、給食時間中に流す放送で美味しさや献立の特徴・秘密を伝えたり、担任の先生からも「美味しそうだね」「おいしいねと」いった声掛けがあることで、直感的に「食べたい」と感じさせることができる。
- 問2 知識への働きかけとしては、朝食を摂ることが体内時計の調整や成長に必要な栄養素の摂取に不可欠であることについて、保健の授業や掲示物を通して分かりやすく伝えることが考えられる。これにより、朝食の重要性を知識として理解できる。
- 自己効力感への働きかけとしては、忙しい朝でも実践しやすい簡単な朝食例を提示し、「これなら自分にもできそうだ」と感じられるようにする。例えば、前日に簡単に準備でき、短時間で食べられるメニューを紹介することで、できそうだと思う気持ちを高める。
- 結果期待への働きかけとしては、朝食を食べることで授業中の眠気が軽減される、部活動や通学時に体が楽になるなど、朝食摂取によって得られる具体的な変化をイメージできるように伝えることが考えられる。これにより、朝食を食べる行動の結果期待を実感しやすくなる。
- 問3 (1) ソーシャルサポートには、主に4つの種類がある。
- ・道具的サポートとは、物品や人手など具体的な援助を直接提供する支援である。
 - ・情動的サポートとは、心理的に支える関わりであり、共感や励まし、安心感を与える支援である。
 - ・情動的サポートとは、助言や知識、経験に基づく情報を提供し、問題解決や判断を助ける支援である。
 - ・評価的サポートとは、評価やフィードバックを行い、自己理解や自信の形成を促す支援である。
- (2) ・道具的サポートとしては、給食時間に教室で盛り付け方のポイントを示すなどの直接的な支援を行うことが挙げられる。
- ・情動的サポートとしては、給食指導に対する不安や戸惑いに共感する声をかけることで、心理的な安心感を与えることが挙げられる。

- ・ 情動的サポートとしては、給食指導に活用できる資料や、配膳のコツを具体的に助言として情報提供を行うことなどが挙げられる。
- ・ 評価的サポートとしては、新任教諭について、課題のある生徒の喫食量の変化や、クラスの給食の準備時間の課題点や良くなっている点などとフィードバックを行うことなどが挙げられる。

【専門科目番号：25 専門科目名：給食経営管理論】

問1 残菜量が多い主な要因は以下の4つが挙げられる。

- ・ 給与栄養目標量の設定の問題
- ・ 献立内容の問題
- ・ 味、温度、硬さ、飲み込み易さなど品質および調理技術的な問題
- ・ 食事環境整備（設備や食に関する情報の提供）の問題

残菜量を減らすための対策として、PDCA サイクルに基づき、まずは栄養・食事管理に関わる帳票や対象者への満足度調査、身体計測値等のアセスメント情報により残菜の要因を検討する。つぎに、明らかになった要因に応じて、栄養・食事計画の問題の場合は、対象者の現状に合わせた給与栄養目標量や献立作成基準の修正、品質や調理技術的な問題の場合は、品質目標の再設定や調理従事者への効果的な研修の実施、適正な人員配置の検討、食事環境の問題の場合は、食事環境の雰囲気やサービス等の見直し改善が必要である。いずれも見直し、改善後は再度、給食提供後にアセスメントを実施するなどPDCAの4つのプロセスを繰り返し行うことが重要である。

問2 食物アレルギー対応における栄養教諭・学校栄養職員の具体的な役割には、以下が挙げられる。

- 保護者との面談に出席し、食物アレルギーの原因となる食品、家庭での除去食の状況を把握する。
- 保護者との面談に出席し、学校生活上の留意点や緊急時の対応、連絡先等を確認する。
（「食物アレルギー個別取組プラン」の作成）
- 学校を通じて、保護者に「食物アレルギー対応予定献立表」を配付する。
- 給食献立の情報（加工食品等の原材料や原料配合割合、対応献立等）について、「食物アレルギー対応食確認書」を保護者へ提供する。
- 担任、養護教諭、保健主事と、保護者との対応について定期的に確認する。
- 給食調理員等とアレルギー対応食の調理作業について綿密な打ち合わせを行い、徹底を図る。
- 給食における食物アレルギーに関する留意事項について教職員へ指導を行う。
- 対応に不明な点がある場合や重症児等については、主治医と連携し検討する。